東の風

石破首相就任から戦後最短で行われた第50回衆院選は、15年ぶりに与党過半数割れの結果となった。自民党議員の裏金問題など「政治とカネ」の問題が最大の争点となったが、今一度、私たちの身近な問題である実質賃金の低下や防衛費増に伴う増税、憲法改悪などを捉え返さなければならない。また、戦後3番目の低さであった投票率に危機感を持ち、政治意識を高め「憲法改悪阻止」「安心して暮らせる社会」の実現に向け、さらに広範な連帯をつくり出さなければならない。

11・1集会で植草さんから講演をいただき感じたことは「世の中の嘘に騙されることなく正しく時代を認識すること」「現実変革のために、評価や誰かの責任とするだけではなく、現実を変えるためにも自ら行動すること」が今必要だということだ。また、植草さんが出版した『沈む日本4つの大罪』という本の中で、次のように記されている。「生産性上昇につながる技術革新をもたらす根源は、優れた人材の確保です。日本の経団連企業のほとんどが基本的に体育会系です。上の命令に絶対服従が基本で、服従する人だけを上に引き上げる。こういう人事を続けてきた企業が圧倒的に多い。」また、「国民の習性として戦前の防空壕で耐え忍ぶような習性が残っている」「受忍するのが当たり前で文句を言う人は『あいつは』みたいな扱いを受ける」とも記されている。この本を読んだ時、率直に今の職場が思い浮かんだ。

第2四半期決算は、職場のたゆまぬ努力の結果、昨年を上回る好調な業績であった。しかし、年末手当交渉で会社は、職場の労苦を重く受け止めるとしつつ「業績を客観的に見る」「計画に届いていない」「一層の努力が必要」などの回答に終始する姿勢であった。職場からは「どれだけ働けば良いのか」「組合が要求し議論しないと会社の主張に騙されてしまう」など落胆や不満、不信感の声があげられた。会社が把握しているという「ポジティブな声」は職場ではほとんどないと言われている。一方、一部社友会情報を見るとその姿勢をあたかも容認しているかのように見える。これが会社のめざす「経営のパートナー」の姿なのであろうか？職場は我慢の限界を超え、JR東労組には組合員に留まらず社友会会員からも本音の声があげられている。あらためて、職場の本音を言い合えるのが労働組合であり、全国の仲間の声をもとに連帯し、たたかいをつくり出せるのがJR東労組の強みであると実感した。

職場ではハラスメントや不当労働行為と言える事象が後を絶たない。八王子地本では、管理者からの暴行に抵抗した、被害者である組合員が加害者扱いされる事態になっている。現場労働者が理不尽な扱いを受けて黙ってはいられない。また、未だにモチベーション低下などを理由に離職していく仲間を目の当たりにしているのも現実だ。このような時代だからこそ、騙されず我慢せず共に声をあげようと訴え、組織強化・拡大を実現し、安全で安心して働ける職場をつくり出そう！

来年は戦後80年、9条連は結成30周年を迎える。また、羽越本線脱線事故と福知山線脱線事故から20年、日航機墜落事故から40年など、様々な節目の年を迎える。

私たちは事故・事象から本質を見抜き「抵抗とヒューマニズム」の原点を捉え返し、「やるべきことはやり、言うべきことは言う」その姿勢をより強固にして現実に向き合っていく。そして職場と地域で、JR総連・JR東労組の必要性をもっともっと訴え、あらゆる分断を許さず、団結と連帯を強化しよう。そして、「平和・人権・民主主義」を掲げ、安全で安心して暮らせる職場と社会を共につくり出そう！

騙されず　我慢せず　共に職場から声をあげ　たたかおう！

第1回 JR東労組地方ローカル線会議

10月24日、「第1回JR東労組地方ローカル線会議」を開催し、各地本の代表者が出席しました。この会議は「ローカル線の安易な廃線を防ぐために何をすべきか」を学び合うことを目的に開催しました。

◆主催者あいさつ　本部・佐々木副委員長

国による再構築協議会の創設が法制化され、議員の皆さんの活躍により「労働者」も議論に加わることが付帯決議された。しかし会社は〝任意〟の協議会として自治体と協議しているが、バス会社やタクシー会社、住民、労働者、物流事業者等を含めた広い意見交換を避けたいのではないか。完全民営化時の「現に営業する路線の適切な維持に努める」との大臣指針は今も生きている。国鉄改革のスキームである内部補助によってローカル線を維持することが困難か否かについて、赤字部分のみではなく黒字部分も出しながら検証されなければならない。

会社がローカル線の見直しを進めたい理由は「固定費の削減」ではないだろうか。他の施策同様、鉄道事業の効率化として「輸送モードの転換」を図るということであれば、ローカル線問題は社会問題ではなく、会社の効率化施策である。

この現状にどうたたかうか。1点目は、ローカル線の将来を「鉄道事業者と自治体」で協議する枠組みであることを踏まえ、自治体へと働きかける地域との連帯をつくること。「旅のプレゼント」も地域とのつながりをつくる一つである。2点目は、組合員の当事者意識を高めること。「旅客が乗っていないなら仕方ない」との経営の視点ではなく、働く側の視点から自らの仕事と生活がどうなるのかを共に考えることが必要だ。

只見線での地域との連帯づくりや、盛岡地本の旅プレに首都圏の仲間も参加することを通じて、「ローカル線を考える場」をつくり出した。利益のみが追求され、社員同士の分断、都市と地方の分断が進められる動きに抗するため、組織としてローカル線問題に立ち向かおう。

◆盛岡地本の報告

地域と連帯し、各線区に「市町民の会」が立ち上がった。震災の被災線区で積み上げたつながりや、議員の皆さまの力を借りながら、意見交換会や首長への要請行動、アンケートや地域集会をつくり、信頼関係を積み上げてきた。地元の「活性化の会」にも参加し、駅でのごみ拾いやイベントを通じてローカル線の必要性が実感されている。ある首長からは「アイデアは沢山あるが、JRは首を縦に振らない」と聞く。自治体提案のサイクルトレインは通らず、委員会活動のものは通るという矛盾もある。全体的な運動に広げたい。

◆仙台地本の報告

地域交通法が成立したが、自治体との協議に利用者や地域住民、労働者の声を反映させなければならない。陸羽東線では市民団体「りくとうサポーターズ」が立ち上がった。「官」である自治体は縦割りになってしまうが、線区全体を見るのは「民」でなければできないと、企業の社長さんから主婦まで、陸羽東線を真剣に考える人々が集まっている。立ち上がった矢先に路線が被災したが、署名運動が展開され、約1万5千筆が集約された。今後も地域との繋がりをつくり、輪を広げていく。

◆主な議論

・9月に「旅のプレゼント」を開催してきた。未加入者からのカンパ、議員の出席もあり大盛況となった。一方、列車から手を振る子供たちに対し、立ち会った管理者が手を振り返さないなど、JRの姿勢に対する疑問の声もあった。

・旅プレは、障がいを持つ子供たちだけでなく、その親御さんにも楽しく過ごしてもらおうと位置づけ、ヒューマニズムを育んできた。しかしローカル線の存廃問題で「旅の手段」そのものが無くなろうとする中、旅プレに「ローカル線の課題」が加わることは必然だ。

・陸羽西線沿線では「バスは迂回するので時間かかる」「『旅』という視点が重要」として、鉄道の重要性を再認識する声もある。

・千葉では久留里線だけでなく、房総半島南側の人口減が顕著。特急の車掌削減が提案されており、働く場と生活が変わってしまう。

・秋田支社のドル箱と言われる五能線は、ダイヤ改正の度に普通列車が切られ、観光列車しか残らない。この現実に切り込まなければならない。

・会津若松支部は支部旅行を只見線で開催し、沿線の観光地を訪れたり、沿線で手を振ってくれる住民へ感謝を伝えに行くことで、只見線への愛着とローカル線問題の当事者意識ができた。ローカル線が関わるイベントに、少人数でも良いから行ってみることが大切だ。

次回は2月21日に開催

日韓登山・労働者交流

11月7～10日、JR総連、JR北海道労組、JR貨物労組の仲間と共に日韓登山・労働者交流を韓国にて開催し、JR東労組からは15名が結集しました。

日韓登山交流は日本と韓国の労働者の連帯を目的とした取り組みで、今回で24回目となります。今年は韓国の「摩尼山」を登りました。登山初心者の仲間もいましたが、山岳部のアドバイスや、韓国の仲間からの激励を受けながら無事に登頂し、参加者の連帯を深めました。

「全泰壹（チョンテイル）記念館」では、全泰壹（チョンテイル）の人生や韓国の情勢なども学び、労働運動を担うにあたっての志を改めて明確にしてきました。

労働者大会においては、デモに参加する韓国労働者の人数や、目の前で機動隊と衝突する姿に圧倒されましたが、非正規労働者の労働実態について韓国の仲間と共に声をあげてきました。

今回、韓国に赴き、労働者大会に老若男女問わず参加し、自分たちの労働環境を改善させていく気持ちの強さに日本との違いを感じ、先導するリーダーたちの熱い心に多くを学びました。また、韓国では日本よりも政治と労働運動に深い結びつきがあり、情勢が変わると運動が大きく変化することを肌で感じました。

韓国で学んだことを職場での実践に生かし、更なる組織強化・拡大につなげます。

鉄道ファミリー　春募集が始まります！

期間　12月1日から1月31日まで

おすすめ！ JR積立年金

JR積立年金は、JR総連組合員だけが加入できる特別なプランです。月払（3口）3,000円から積立可能です。

予定利率は 年1.25%！！

JR積立年金は春（4月）と秋（10月）にしか加入できません！

引き出しも自由に出来ます！ 是非ご検討下さい！

その他にも、【アフラック がん保険・医療保険】【AIG損保の自動車保険】など各種保険も取り扱っています。

すみっこ商店では健康食品はもちろんのこと各種酒類や鉄道模型など取り揃えています。

詳しくは鉄道ファミリーのホームページをご覧ください。

鉄道ファミリー

JR東海労に対する「再審査の統制委員会の設置」と「一部権利停止」について

ジェイアール東海労働組合（JR東海労）の二重加盟問題などを受け、JR総連はJR東海労を「除名」としましたが、JR東海労から再審査が申し入れられました。これを受け、JR総連は10月30日に「第47回臨時委員会」を開催し、JR東海労に対する「再審査の統制委員会の設置」が満場一致で確認されました。

なお、同日、JR総連は第7回執行委員会を開催し、規約に基づく緊急措置として、JR東海労の一部権利停止を決定しました。「一部権利停止は、地方協議会・都府県協議会常任委員会ならびに諸活動への参加を認めない」「加盟単組は、組織の一層の団結・強化を図ることを要請する」の2点を決定しました。